



研修会の様子

りませんでした。まだ見ぬ写真資料が韓国にあるかもしれないという新たな期待が芽生えました。清水教授は今後も県内外で調査協力体制を整え、共同研究を進めていく予定です。

その他、嘉手納町歴史民俗資料室「かでな未来館」では、戦争体験者の証言を映像記録に残す事業を行っているほか、平和学習メニューをまとめたパンフレットを学校現場に配布しているという事例報告がありました。沖縄県史からは沖縄戦の証言等に関する著作権処理について問題提起が行われ、かつての証言等を再利用する際の注意点や課題を教えていただきました。恩納村史編さん係戦争編担当の瀬戸も『恩納村史戦争編』（2022年3月発刊）が、村内小中学校の平和学習で活用されている事例を報告しました。瀬戸は学校現場だけでなく、教育委員会地域コーディネーターの安永さんとともに、地域の大人たちを巻き込んだ平和学習も開催。OISTでも戦争体験者とともに平和講演会に登壇し、沖縄戦や恩納村の戦争について広く発信していきます。

今回の研修会では、各機関が市町村史の発刊をゴールとせず、次につながるための様々な事業を展開していることを学ぶことができました。戦争体験者が少なくなる今日、沖縄戦の体験や記憶を、次の世代へと伝える取り組みがますます重要となってきます。私たち恩納村史メ



恩納村史編さん係(瀬戸)の報告

ンバーも、先述の済州大学博物館に所蔵されている写真資料のような新たな史資料の捜査、発掘も継続して行い、記録を整理し継承していく必要性を痛感した研修会となりました。(町田)

【参考資料】

- ・沖縄県地域史協議会会誌第48号 2025年
- ・沖縄県地域史協議会2025年度第1回研修会資料
- ・「沖縄タイムス」2025年7月23日

「お願い」

来年3月に『恩納村史 第4巻 芸能編』の発刊を予定しています。恩納村の芸能について、5人の先生が執筆します。9月初旬には旧盆(エイサー)があり、その後もウシデークや豊年祭など、地域芸能が各地で披露されます。関係者が追加調査などで地域を訪れることもあります。引き続き調査へご協力くださいますようお願いいたします。